



©Yuki Asada

難民女性たちの生きる力に

アフリカ大陸の北東沿岸部に、四国の1.3倍ほどの小さな国がある。アラビア半島との間、紅海の入り口に位置するジブチ。さまざまな国の船舶が往来する中、国境沿いにはソマリアやエチオピアから逃れてきた数多くの難民が暮らす。

紛争や貧困により祖国を追われた人々は、安定した生活の場も収入もない。いつ故郷に帰れるかも分からないまま、「生きる」のに精いっぱい毎日だ。

特に女性の中には、シングルマザーや家族と離れ離れになってしまった人も多い。そんな彼女たちの自立を支援するため、青年海外協力隊の平野愛美さんが立ち上げたのが「お土産プロジェクト」。難民キャンプの女性たちとともに、

ジブチの魅力をつんだんに盛り込んだ“お土産”の開発をスタートした。

「最初は半分近く手直しが必要だったのですが、だんだん『お客さんに喜んでもらえるモノを作りたい』という思いが製品の質に表れてきています」と平野隊員はうれしそうに話す。

現地の男性が腰に巻くフータという布で作った小銭入れ、女性が身にまとうシャールを使った巾着袋など“ジブチらしさ”あふれるお土産の数々。日本人の国際協力関係者や海賊対策で派遣されている自衛隊員などにも人気だという。

「このお土産、家族に買って帰るね」。そんな言葉が、彼女たちの生きる力となっている。



「仕事があることの喜びが女性たちのやる気につながっているようです」と平野隊員(中央)

★小銭入れを3人、ハンカチ、携帯ストラップを各2人、ボールペン、巾着袋を各1人にプレゼント!→詳細は38ページへ

